

ほこりのすみれ

すべてさわって、お辞儀草の葉っぱを、すべてお辞儀させる、葉っぱはわたしのように疲れていて、誰にでもお辞儀をする、葉っぱはなんで、わたしにもお辞儀をするんだ、眼に飛び込んできた小虫、眼の中で死んでしまった、歯と歯の間から出てきた粒胡椒はいつまでもからく、わたしの中にある小さなコップをゆらす雨、檻に入れられた猛獣よりも、鳩やすずめを追いかける子どもたち、その奇声、たよりない炭酸が口内を隅々まで洗おうとする、そんなのは無理なのに、いつのまにか留め金が前にきてしまうネックレス、熱割れした窓ガラスのワイヤーの模様、指先の血管がしおれていく、あなたは正しい、わたしは、スーパードただでもらえるロールになっっているビニール袋に入れて、入れた、入れたのはなんだったのか、うすい半透明なビニール袋、ただでもらえる、くるくる、ぷちって、切っ

て、トイレットペーパーみたいな、ただでも  
らえる、入れたのはなんだったのか、静電気  
に怯えていると静電気は起こらない、静電気  
のことをすっかり忘れていると静電気が起こ  
る、だから静電気に怯えながらドアノブをさ  
わるしかない、誰かの日記を読むように、自  
分の日記を読む、いや、わたしは日記をつけ  
ていないんだった、日記はつけていないけれ  
ど、白紙というわけではない、でも日付がな  
いからぐちゃぐちゃなんだ、それは置いてお  
くと、腐って変なおいがしてくる、それが  
残念とかかなしいとか、さびしいとか、そん  
なこともなく、腐っていくことは当たり前の  
ように感じる、そういうので満たされたコッ  
プを持っていて、絆創膏を巻いていた部分は  
ぶよぶよしていて、しろくて、ちくちくする  
服を着ていると、自分をだきしめることがで  
きない、雨がふったりやんだりするでしょう、  
雨は、ふったりやんだりするでしょ、当然で  
しょ、部屋の隅、埃の董を摘んで、驚かせて

きた家蜘蛛に、やさしく息をふきかける、水  
切りかごの下の水、魚の目、うるさい金木犀、  
彫刻の死、すべていい思い出、ってそんなわ  
けあるか、わたしのまっとうな薄汚さ、急速  
充電器を刺したまま、小さなコップをゆらす、

雨は